

















平成28年度現地検討会実施状況（森林整備における低コスト化の推進等）

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
低コスト化	コンテナ苗植栽現地見学会 (十勝地域林政連絡会議 (第1回))	6月8日	十勝東部森林管理署	足寄町(国有林)	国有林	16名	森林整備の低コスト化を地域に普及するため、「コンテナ苗」の民有林への普及に向けた現地検討を実施	初めて参加する自治体の参加もあり、北海道森林管理局のこれまでの取り組み、植付時期の拡大、規格化された苗による作業の省力化や作業仕組みの見直し、アースオーガ(植穴掘り器)の導入による作業工程の改善等について説明。 植穴を掘る者と植込む者が二人一組となって植栽する作業を見学した。 参加者から「一貫作業システムの方が伐採から植付まで先を見通した作業ができる」、振興局関係者からは「コンテナ苗の普及には、裸苗との価格差を2倍以内に抑えることが必要」といった意見があった。	
					民有林	12名			
					事業者	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
合計	28名			初めて参加する自治体関係者					
低コスト化	天然更新試験地カラマツ環状剥皮・着果調査研修会	6月13日	森林技術・支援センター 上川南部森林管理署	南富良野町(国有林)	国有林	11名	地がき作業によりカラマツの天然更新を図るため、環状剥皮による結実促進の効果を検証するために実施	帯状伐採跡地における地表処理によるカラマツの天然更新の有効性を検証する区域において隣接木20本を環状剥皮と対象木(隣の区域から20本)の着果調査により、その効果を比較検証を行うこととした。 環状剥皮の作業は容易であったが、双眼鏡による結実の確認が難しく、技術の要する調査という意見があった。 今回の剥皮の効果は来春の着果に現れることから、今後2年間調査を予定している。	
					民有林	名			
					事業者	名			
					研究機関	1名			
					その他	名			
合計	12名			環状剥皮したカラマツ					
低コスト化	相互交流現地見学会	7月15日	北海道大学雨龍研究林 空知森林管理署北空知支署	幌加内町(民有林)	国有林	6名	朱鞠内未立木地対策及び低コスト造林対策の情報収集及び意見交換のため、北海道大学雨龍演習林見学会を実施	北大雨龍研究林内の天然更新作業地を視察、表土を堆積させる期間の違いによる更新状況、地表処理による天然更新地の除伐などの保育作業について意見交換を行った。	
					民有林	名			
					事業者	名			
					研究機関	7名			
					その他	名			
合計	13名			表土戻し箇所での意見交換					
低コスト化	「カラマツの天然更新を活用した造林技術の開発」現地検討会	8月2日	森林技術・支援センター 上川北部流域森林・林業活性化協議会	士別市(国有林)	国有林	61名	伐採後の再造林について、低コスト再造林技術の確立のため、森林技術・支援センターが取り組んでいるカラマツの天然更新に関する技術開発を通して、民有林関係者との意見交換、情報提供を図る目的で上記現地検討会を実施	当センターの「カラマツ天然更新試験地」において、試験の基本設計・施工方法や天然更新しているカラマツの成長状況等について、代表的な2箇所(5m・10m幅)を見て頂き当センター担当者より説明を行った。 林業試験場からカラマツ天然更新施業の取組状況の情報提供があった。 意見交換ではカラマツ稚樹の生育のための照度や今後の下刈・野鼠防除の考え方等について議論し、参加者から「更新方法を考える際、川上から川下までの地域的・社会的条件を踏まえた森林の生産目標の決定が大切」との意見もあった。 当検討会を通して天然更新のメリット・リスクが深まり、低コスト化造林の取組が各機関に広がることを期待したい。 なお、当研究課題についてはH29年度に研究結果をとりまとめ情報発信の予定です。	
					民有林	24名			
					事業者	2名			
					研究機関	10名			
					その他	名			
合計	97名			カラマツ天然更新試験地					

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
コンテナ苗	石狩管内森林計画実行管理技術研修	8月25日	石狩振興局森林室 石狩森林管理署	恵庭市（国有林）	国有林	7名	森林整備の低コスト化を地域に普及するため、指導林家等市町村林務担当者を対象に森林整備に関する知識・技術の向上を目的とした現地検討会を実施	コンテナ苗の活用等によるコスト削減を本年度一括発注箇所において参加者に植栽を体験していただき、また、民有林現場において指導林家個人が取り組んでいる試験地を見学し、林務行政に携わる関係者の知識・技術向上を目的として実施した。	
					民有林	20名			
					事業体	9名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	36名			
一貫作業	誘導伐・コンテナ苗植栽に係る現地検討会	9月6日	留萌南部森林管理署	小平町（国有林）	国有林	60名	誘導伐とコンテナ苗植栽による一貫作業の取り組みにおける効率化及びコスト低減について現地検討を行い、伐採・再造林の拡大に向けた課題解消と民有林林業への普及・啓発を実施	平成28年度に実施した誘導伐、地拵・植付までの一貫作業についての概要説明を行い、低密度植栽など異なる植栽本数の箇所の比較とコンテナ苗の植樹体験も行った。 また、国有林が行っている低コスト造林に向けた取り組み及び課題提起しながら意見交換を行い、末木枝条や伐根の処理方法、大型機械地拵の仕様などの意見があり、今後の取組課題として参加者の認識を高めることができた。	
					民有林	32名			
					事業体	6名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	98名			
低コスト化	「小型高性能機械等における低コスト化・軽労化」に関する現地検討会	9月8日	上川北部森林管理署 宗谷森林管理署 中川町	中川町（民有林）	国有林	35名	民有林の伐採作業の低コスト化を推進するため、現地条件等に応じた小型フォワーダの活用及び下刈作業の軽労化のための草刈機械の活用について意見交換と情報共有を実施	地形が複雑で土質の軟弱地帯が多い道北地域において、小規模事業地が多い民有林での小型フォワーダの活用による低コスト化及びチシマ笹地帯が広がる当地域において課題となっている下刈作業の軽労化に向けた草刈機械の活用について、それぞれ意見交換を実施。 草刈機械については関心が高く、今後の改良点として伐根上や起伏に対応した走行性の確保等について意見交換が行われた。 これらについては引き続き情報提供していく予定。	
					民有林	20名			
					事業体	20名			
					研究機関	2名			
					その他	名			
					合計	77名			
低コスト化	バックホウによる機械地拵え現地検討会	9月12日	留萌振興局	小平町（道有林）	国有林	7名	今後増加が見込まれる造林作業について、人力作業を機械化することで省力化を図り、より効率的な造林コスト低減に向けた検討	バックホウにアタッチメントを装着させた機械地拵えの作業状況を確認し意見交換を行った。 若手や現場担当の参加者から「表土を残すと、笹の根茎が残り手直しの必要があるのでは」「伐根処理にはアタッチメントの改良が必要」など、今後のさらに工夫・改良の検討を期待する意見が出されていた。	
					民有林	16名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	23名			
一貫作業	地域住民と創る道有林現地検討会	9月13日	留萌振興局	小平町（道有林） 増毛町（道有林）	国有林	7名	次期の道有林基本計画の策定に向け、地域住民の意見を計画に反映させるため、道有林の森林整備状況等を見学し意見交換を実施	振興局より、道有林の次期整備管理計画のあらまし等の説明後、道有林の主伐施業（皆伐）の実施箇所、一貫作業による大型機械地拵え箇所、治山事業の施工箇所について説明を受け意見交換を行った。 質問意見として、「地拵えの列方向や工程について」「流路工の施工資材（間伐材）の耐久性」等についての質問があった。	
					民有林	22名			
					事業体	2名			
					研究機関	名			
					その他	6名			
					合計	37名			

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
低コスト化	相互交流現地見学会	10月3日	北海道大学雨龍研究林 空知森林管理署北空知支署	幌加内町（国有林）	国有林	7名	朱鞠内末立木地対策及び低コスト造林対策の情報収集及び意見交換のため、国有林の現地見学会を実施	アカエゾマツ植栽箇所、地表処理後30年経過した箇所などの現地案内を実施、土壌の違いによる活着や雪害、天然更新地の除伐方法について意見交換を行った。 次年度もコンテナ苗や地表処理方法などについて意見交換を実施する予定。	
					民有林	名			
					事業体	名			
					研究機関	11名			
					その他	名			
					合計	18名			
一貫作業	コンテナ苗植栽研修会	10月5日	上川中部森林管理署 旭川地方森林整備事業協同組合	上川町（国有林）	国有林	10名	素材生産と造林の一貫作業の効率化及び現場技能者の育成に資するため、素材生産事業者にコンテナ苗植栽を体験してもらう現場研修を旭川地方森林整備事業協同組合と連携して実施	一貫作業で造林の低コスト化、集約化作業及び施工性の良いコンテナ苗の活用により、生産と造林を兼務できる人材育成の必要性を説明、植栽器具を使用し参加者に植栽体験をしてもらい使い勝手を確認した。 意見交換では、「根鉢の大きさと合えばディプルが一番工程が上がる」「スペードは力が必要であり、短い補助棒も必要である」等の意見が出された。 次年度以降、植栽した木の成長を確認しながら、今後のコンテナ苗の普及に向けての検証材料としたい。	
					民有林	名			
					事業体	18名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	28名			
コンテナ苗	コンテナ苗について勉強会	10月19日	檜山森林管理署	木古内町（国有林）	国有林	16名	渡島種苗協議会生産のコンテナ苗（トドマツ）について植付現地において、植付業者を交えての意見交換会の実施	昨年からの地元種苗業者より出荷されるようになったコンテナ苗について、植付業者を交えて意見交換会を実施した。 意見交換では「これまでの道東方面の苗木よりも根鉢や枝葉が良好な苗木に見える」との森林官の意見があった。 また、植付業者からは「種苗業者が近いため苗木運搬や日程等打合せが容易である」との意見があった。 今後、活着率や成長率等、追跡調査をしていくこととしている。	
					民有林	名			
					事業体	6名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	22名			
一貫作業	第2回渡島檜山地域林政連絡会議 一国有林における一貫作業システム現地検討会	10月20日	渡島森林管理署 渡島総合振興局東部森林室	森町（国有林）	国有林	20名	国有林における一貫作業システム実施箇所において、一貫作業による低コスト化、誘導伐による複層林化への誘導について当署の事例を基に説明	誘導伐を実施している現地に林政連絡会議の構成員に加え近隣の市町村担当者及び事業者を招いて、複層林への誘導の考え方やそこで行われている伐採・搬出中に地拵えを完了しコンテナ苗を植栽する一貫作業システムについて説明した。 参加者からは、コンテナ苗の確保や事業発注の難しさなどのについて意見が出された。	
					民有林	16名			
					事業体	1名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	37名			
コンテナ苗	石狩市森林整備推進協議会 現地検討会	11月8日	石狩市 石狩森林管理署	石狩市（国有林） 石狩市（民有林）	国有林	3名	市町村が作成する林地台帳等の効率的な管理手法を学ぶため、GPS等を活用した森林管理技術を習得	民国森林共同施業団地の取組概要説明、林業専用道の作設事業の路線説明・事業内容について情報交換を行った後、現地にて意見交換を実施、民有林のコンテナ苗試験地の成長状況と今後の普及に向けた意見交換を実施した。	
					民有林	9名			
					事業体	5名			
					研究機関	名			
					その他	4名			
					合計	21名			

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
コンテナ 苗	第2回地域林政連絡会議見 学会	11月9日	上川中部森林管理署 上川北部森林管理署 上川南部森林管理署 空知森林管理署北空知支署 上川総合振興局	北見市（種苗会社） 紋別市（製材工場）	国有林	16名	今後の低コスト造林に欠かせないコンテナ苗の現状及び先進的製材工場の機械導入状況を把握するため、種苗会社及び製材工場との意見交換を実施	種苗会社から、現在の苗木の作成及び出荷状況を説明していただき意見交換を実施した。 意見交換では、「国有林での採種園整備をお願いしたい」「春植え秋出しは根が付かなくむづかしい」等の意見があった。 製材工場では、「材が運べないと工場に影響があり運材をスムーズにできるよう路網整備をお願いしたい」という意見が出され、林道の維持修繕の必要性を改めて実感した。	 コンテナ苗の現況説明を受ける様子
					民有林	8名			
					事業者	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	24名			
育種	採種園整備	11月17日 11月18日	上川中部森林管理署 林木育種センター北海道育種場	旭川市（国有林）	国有林	7名	今後増加していく主伐・再造林に向けて、良質な遺伝を持つ種子の確保が必要なことから効率的かつ安定的に種子を確保するため、路網の整備と合わせ、母樹の生育環境を整えるための受光伐をどのように実施していくか現地検討を実施し、引き続き受光伐に向けての調査を実施	育種場で母樹の伐採・残存の選定しており、雨紛採種園で母樹の確認、集材路の選定、伐採搬出に伴う支障木の選定等を行い、その後平成29年度以降の伐採に向け収穫調査を行った。	 伐倒木の調査をする様子
					民有林	名			
					事業者	名			
					研究機関	3名			
					その他	名			
					合計	10名			